

質問事項

- ◆米価引き下げの現状と対策
- ◆独立行政法人香取おみがわ医療センターの中期目標(素案)
- ◆市の中長期財政推計
- ◆地域子育て支援センター

# 宇井正一

ういしょういち 議員

## 米価の大暴落で農家は悲鳴、香取の中小業者へも影響



## 香取おみがわ医療センター内、又は隣接地に産婦人科を



質問事項

- ◆市の農業対策
- ◆市の産婦人科誘致

# 久保木宗一

くぼき そういち 議員

**問** コロナ対応の事業継続支援金事業に農業も加えるべきではありませんか。

**答** 市内の農家から農産物および農産加工品について生産・流通・販売が滞り大きな影響を受けているとの声はありませんでした。また、国独自のコロナ対策事業経営継続補助金について、市内の多くの農家が支援を受けていることから、市独自の支援金事業は実施していません。

**問** 米価の大暴落は、農家の現場から希望を奪い取っています。しかし、政府は効果的な対策をとっていません。コメ農家だけでなく、中小の事業者にも大きな影響があります。市長の見解は。

**答** 令和3年産の米価については、いずれの品種も前年と比べ2000円以上の大幅な下落があったことは承知しており、水稲生産農家の経営への影響について非常に憂慮しています。香取市経済への影響については、水稲生産農家の資金投入を控えることが予想され、関連企業等の経営も打撃を受け、経済が疲弊する懸念があると推察されます。



稲刈りの様子

**問** 安心して出産するために医療体制の整備充実、緊急事態に対応できる環境が必要だ。そのためには病院内又は病院の隣接地に開設する事がふさわしいと考える。なぜ香取おみがわ医療センターの敷地内ではなく香取市役所敷地内に誘致開設するのか。

**答** 誘致活動の一環として、産婦人科の進出意向等に関する市場調査により、進出に前向きな回答をいただいた法人を対象に行ったヒアリング等を踏まえ検討した結果、市有地であること、市役所に隣接し、利用者にとって分かりやすく利便性が高い場所であること、佐原消防署が隣接していることから迅速に救急搬送が可能であるなどの理由から、香取市役所の隣接地である旧香取保健所跡地が産婦人科施設の誘致場所として最も適していると判断しました。

**問** 災害の危険性のない場所に誘致を

**答** 市役所の敷地は液状化地帯で産婦人科誘致には危険な場所だが、なぜ最適地として選んだのか。

## 災害の危険性のない場所に誘致を



産婦人科施設誘致場所の旧香取保健所跡地

**問** 出生数の少ない香取市で産婦人科経営を継続するには出生数の多い神栖市の利用が望まれる。隣接の小見川なら利用者を見込めるのでは。

**答** 複数の医療法人が進出に興味を示されたのが、小見川ではなく佐原であることから、旧香取保健所跡地に誘致することについて不安はありません。

## 近隣市町並みに飼料用米補助金増額を

**問** 一反歩10アルル当たりの近隣市町及び香取市の飼料用米の補助金はどのくらいか。

**答** 飼料用米に対する支援については、香取市は出荷奨励金として10アルル当たり8000円です。近隣市町については、成田市は多品種が1万5000円、主食用米が1万4000円、神崎町は1万2000円、東庄町が1万2000円、多古町は5000円、旭市は1万2000円となっています。

**問** 2年前に香取市の補助金が9000円から8000円に減額されたのか。

**答** 補助金額としては、8000円と把握しています。

## おみがわ医療センターはどいつなる

**問** 独立行政法人としての香取おみがわ医療センターの中期目標である、救急患者の受け入れ体制の構築、新型コロナウイルス感染症の流行への適切な対応などについて実効性の確保ができますか。

**答** 市が中期目標として指示した内容について香取おみがわ医療センターが取る体制等は、香取おみがわ医療センターが市に示す中期計画に具体的に記載されます。中期計画については評価委員会に意見を求めて調整しているところです。

**問** 合併特例債は合併事業に有効な財源ですが、香取市の発行限度額、現在までの使用済み額はいくらか。今後の活用事業は。

**答** 合併特例債については、起債限度額は400億2380万円となっており、令和2年度までに45事業、実績額として292億9440万円、起債限度額の約73%を執行している状況です。今後の活用予定事業については、整備中の佐原駅周辺地区活性化拠点整備事業、上水道統廃合事業、橋ふれあい公園整備事業、道路整備事業などを予定しています。

**問** 地域子育て支援センターにおける支援員の定着のための指導は。

**答** 支援員の確保に当たっては、働きやすい職場環境づくりを指導し、支援員の定着を目指していきたいと考えます。